

原 著

吸入ステロイド薬フルタイドロタディスク使用症例における 喘息治療薬処方量の変動に関する検討

けいなん総合病院、薬剤部；薬剤師¹⁾、上越総合病院、薬剤部；薬剤師²⁾
糸魚川総合病院、薬剤部；薬剤師³⁾、栃尾郷病院、薬剤部；薬剤師⁴⁾

竹ノ内秀行¹⁾、山本 修也²⁾、山本 剛³⁾、中村 博⁴⁾

抄 録

目的・方法：喘息管理コントローラー薬としての吸入ステロイド薬プロピオン酸フルチカゾン（フルタイドロタディスク プリスター100 µg 4プリスター/ディスク、日本グラクソ・スミスクライン社、以下、フルタイド100 ロタディスクと呼称）使用により、他の喘息治療薬がどのように変動したか、フルタイド100 ロタディスク使用前後の1年前より2年後までの3年間における、全ての喘息治療薬について患者カルテから抜き取り調査した。

成績・結論：フルタイド100 ロタディスク使用により、コントローラー薬はいずれも使用後1年に有意に減量し、使用後2年もその傾向が認められた。リリーバー薬も同様に減量傾向がみられた。フルタイド100 ロタディスクは長期使用により併用薬の経年的な減量に寄与し、症状の発現予防や患者QOLの向上に有用な薬剤と思われる。

キーワード：フルタイド100 ロタディスク、コントローラー薬、リリーバー薬、減量離脱

緒 言

喘息の薬物療法は、長期管理薬（コントローラー Controller）と発作治療薬（リリーバー Reliever）、その他に3分類される。吸入ステロイド剤は喘息予防及び管理において、各種ガイドラインでコントローラーとして位置づけられている。平成11年1月に当院にて採用されたフルタイド100 ロタディスク使用により、他の喘息治療薬がどのように変動したか、今回比較検討したのでここに報告する。

対 象 と 方 法

対象者は当院内科で平成11年1月~平成12年6月にフルタイド100 ロタディスクが処方された全患者。フルタイド100 ロタディスク使用1年前~2年後までの全ての喘息治療薬について患者カルテから抜き取り調査した。評価方法としては、フルタイド100 ロタディスク使用前、使用後1年、使用後2年の喘息治療薬処方量を薬効群別に集計比較することとした。

結 果

調査背景：総症例数114例 年齢15歳~92歳 平均61.7歳 男性71例 女性43例 使用後1年採用数59例 使用後2年採用数30例

コントローラー薬の使用量の変動（図1）は、全体的に減量傾向にある。

リリーバー薬（頓服薬剤）の使用量の変動（図2）もコントローラー薬同様、全体的に減少傾向にある。

コントローラー薬の減量率及び離脱率（図3）では、主に吸入β2刺激薬、経口β2刺激薬、経口ステロイドの減量離脱がみられた。吸入β2刺激薬では100%の減量離脱、経口β2刺激薬では使用後1年で73%、使用後2年で56%の減量離脱がみられた。特に経口ステロイド薬の離脱率は、使用後1年で48%、使用後2年で50%の患者が離脱していた。

リリーバー薬の減量率及び離脱率（図4）でもコントローラー薬と同様に減量離脱がみられた。

外来点滴もフルタイド100 ロタディスクの使用により、通院回数が減少していることがわかった。

考 察 ・ 結 論

以上より、フルタイド100 ロタディスク投与前後の喘息治療薬使用量を検討した結果、フルタイド100 ロタディスク使用により、コントローラー薬である吸入β2刺激薬、経口β2刺激薬、テオフィリン、経口ステロイド薬の使用量はいずれも使用後1年に有意に減量し、使用後2年もその傾向が認められた。リリーバー薬である経口ステロイド薬が有意に減量し、吸入β2刺激薬、経口β2刺激薬、及び外来点滴も有意ではないものの減量傾向がみられた。

対象全薬剤の減量離脱患者の割合は50%以上で、コントローラー薬の経口ステロイド薬も約50%離脱していた。

よってフルタイド100 ロタディスクは長期使用により併用薬の経年的な減量に寄与し、症状の発現予防や患者QOLの向上に有用な薬剤と思われる。

英 文 抄 録

Study on changes in prescription volume of anti-asthmatic drugs after using Flutide Dispensary,

Keinann General Hospital; Pharmacist¹⁾, Dispensary, Joh-etsu General Hospital; Pharmacist²⁾, Dispensary, Itoigawa General Hospital; Pharmacist³⁾, Dispensary, Tochiogou Hospital; Pharmacist⁴⁾

Hideyuki Takenouchi¹⁾, Nobuya Yamamoto²⁾, Tsuyoshi Yamamoto³⁾, Hiroshi Nakamura⁴⁾

Abstract

Objective · Study design : In order to investigate the changes in the prescription of other asthmatic treatment drugs after taking Flutide 100 Rotadisk, we extracted the data from patient medical charts on all asthma treatment drugs taken from 1 year prior to using Flutide 100 Rota-

disk until 2 years after using it. Results · Conclusion : Use of Flutide 100 Rotadisk significantly reduced the volume of all the controller drugs one year after such use ; and similar tendencies were also observed two years after such use. Similar dose-reduction patterns were also seen with respect to reliever drugs. Long-term administration of Flutide 100 Rotadisk is believed to contribute to a reduction in volume of concomitant drugs over time ; it is also useful for preventing the onset of symptoms and enhancing patients' quality of life (QOL).

Key words : Flutide 100 Rotadisk, controller drugs, reliever drugs, prescription volume reduction

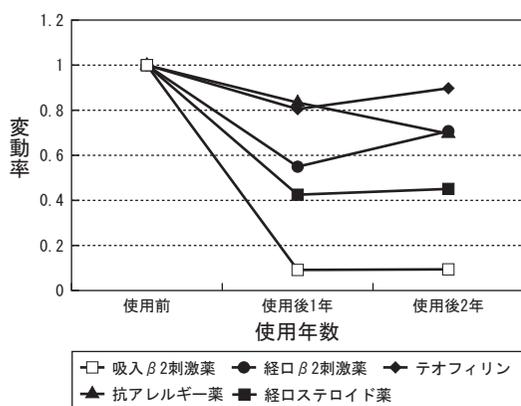


図 1 コントローラー薬の使用量の変動

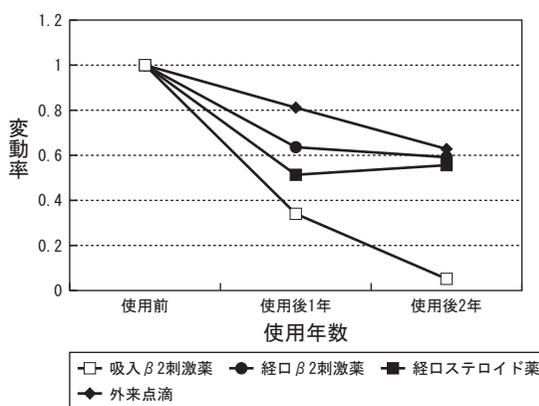


図 2 リリーバー薬の使用量の変動

	使用後 1 年 (N=59)				使用後 2 年 (N=30)			
	前使用	減量例	離脱例	減量離脱例	前使用	減量例	離脱例	減量離脱例
吸入β2刺激薬	20	2	18	20 (100%)	10	1	9	10 (100%)
経口β2刺激薬	15	6	5	11 (73%)	9	1	4	5 (56%)
テオフィリン	42	18	6	24 (52%)	26	11	6	17 (65%)
抗アレルギー薬	50	27	2	29 (58%)	27	16	3	19 (70%)
経口ステロイド薬	29	11	14 (48%)	25 (86%)	18	6	9 (50%)	15 (83%)

図 3 コントローラー薬の減量率及び離脱率

	使用後 1 年 (N=59)				使用後 2 年 (N=30)			
	前使用	減量例	離脱例	減量離脱例	前使用	減量例	離脱例	減量離脱例
吸入β2刺激薬	10	7	3	10 (100%)	5	1	4	5 (100%)
経口β2刺激薬	12	7	1	8 (67%)	7	2	2	4 (57%)
経口ステロイド薬	33	20	6	26 (78%)	17	9	3	12 (71%)
外来点滴	32	8	15	23 (72%)	19	5	10	15 (79%)

図 4 リリーバー薬の減量率及び離脱率